

YWVOB会 会報 No.27

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部OB会

2004年9月12日発行

～ 27号の目次 ～

・第10回 OB 山行の報告(御正体山)	1	・苗名小屋トイレの改修について	6
・第11回 OB 山行の報告(磐梯山)	3	・R2004 の開催案内	8
・第12回 OB 山行のご案内(越前岳)	4	・期別便り(44期)	9
・2005年度総会の開催案内	6	・自由投稿	10

■ 第10回OB山行の報告(御正体山)

報告：OB 山行委員長 小野 恵美子(34期)

〔日程〕2004年5月15日(土)

〔参加者〕吉田[輝][1]、吉野[2]、小林[7]、山本[陽][10]、榎本[12]、狩野[14]、中島[15]、小浜[17]、白須[17]、笹倉[30]、松尾[33]、田村[34]、小野[34]

(計13名・敬称略・[]内数字は期)

記念すべき第10回目のOB山行として、去る5月15日 200名山の一つ御正体山に行ってまいりました。何故か悪天候の確率が高いOB山行ですが、この日は風薫る爽やかな好天で、まさに絶好の登山日和でした。総勢13名、楽しい山歩きができました。山本さん、中島さんは千葉から始発電車でお越しくございましたし、松尾さんは33期の正部員が不参加であっても参加してくださいました。有難いことです！道坂トンネル横の集合場所には電車参加組と合流しながら数台のマイカーで乗りつけましたが、途中道に迷う車あり、買い物によってしまう車あり。携帯電話での連絡が威力を発揮していました。大勢の待ち合わせには本当に便利なものですね、と未だ携帯不所持の私は思ったのでした。

開会式の後、朝9時15分に登り始めました。始めに急登が待ち構えていましたが、それを過ぎるとゆるやかな上り下りが続く快適な山道です。何より緑が美しく、緑の山の懐に入っていく感覚でした。ブナやらミズナラやら多くの樹木があり自然林として保護しているとの看板を目にしました。私は山行の下見として吉野さんと4月末に同コースを歩いたのですが、ほんの数週間で緑の色が変わっているのに驚きました。下見の時は淡くやさしい緑でしたが、山行当日は鮮やかな力強い緑でした。自然の息吹を感じて嬉しくなりました。同じ山に時期を変えて訪れるのもまた楽しいものです。緑の中にヤマツツジや時折小さな花が咲いていて、名前を教わりながら歩きました。山



の植物に詳しい方が多くて、無知な私は感心するばかりです。私は教わってもしばらくすると忘れてしまうのですが。歩きながらや休憩中のお話は、学生時代の思い出やらそれぞれの仕事のことやらはたまた年金問題にもおよんで賑やかでした。年齢も職業も違う人たちが同じ時間をこんなに楽しく共有できるのは少し不思議な気がします。これも OB 山行の魅力の一つです。最後に急登を越えて正午過ぎに山頂に着きました。木々に囲まれて展望はありませんが、広くてのんびり昼寝でもしたい頂です。昼食をとった後、第 10 回記念のビンゴ大会を行いました。熱戦(?)の末、榎本さんと中島さんがささやかな賞品を獲得されました。その後恒例の集合写真を撮り、下山路につきました。樹林越しに富士山を垣間見ながら急坂を下りていきます。高低差約 1000m の下りは途中から膝が笑いましたが、仏ヶ沢の水場でおいしい沢水を飲み、そこからはゆるやかな林道で下山地の三輪神社に到着しました。今回のコースは歩きやすく、コースタイムはガイドブックに書かれているよりずっと縮まりました。展望が無く地味ではありますが、どっしりと落ち着いた山容で純粹に山歩きを楽しむことができました。



山頂でビンゴゲーム！

帰りの車の中で、吉野さん、狩野さんとこんな話をしました。山登りの後は身体は疲れているけれど仕事の疲れと違って心地良い疲れですね。仕事で疲れて休日に家で過ごしているより、山に来たほうがずっと元気が出る。また頑張ろうって気持ちになる・・・。

私も本当にそうだと思います。皆様はいかがですか。しばらく山から離れていらっしゃる方も是非今後の OB 山行にご参加ください。楽しい時間と偉大なる自然の癒しが待っています。



御正体山山頂での集合写真■ 第11回OB山行の報告(磐梯山)

報告：OB山行委員長 小野 恵美子(34期)

〔日程〕 2004年8月28日(土)

〔参加者〕 嘉納[1]、藤岡[1]、吉野[2]、北見[2]、白井[3]、腰塚[3]、塩谷[3]、吉村[3]、谷上[4]、原[4]、郡司[4]、大黒[4]、竹内[4]、永田(明)[4]、永田(多)[4]、松本[6]、古庄[6]、岡田(光)[6]、岡田(美)[6]、岡田(令嬢)、林[7]、古宮[7]、久保木[7]、小林[7]、八島[7]、今井[7]、小木曾[7]、田中[8](山行幹事)、早坂[8]、松本[8]日渡[9]、安藤[11]、榎本[12]、小口[14]、狩野[14]、大倉(狩野友人)、中島[15]、小浜[17]、白須[17]、山口[18]、植草(慶)[18]、植草(美)[18]、笹倉[30]、藤田[30]、小野[34] (計45名・敬称略・[]内数字は期)

11回目のOB山行は第63回シニアOB月例山行の企画にのせていただいて開催しました。前日夜に貸切バスで出発して朝早くから磐梯山に登る企画です。金曜日の夜11時、東京駅前から出発。仕事帰りに大きな荷物を抱えて参加された方々もあり、7期服部さんはお忙しいところお見送りに来てくださいました。ほぼ満席の大型貸切バスの中は子供の頃の遠足を思い出しました。早めに着いたSAで夜が明けるまで仮眠。男性には座席がやや狭かったようで、バスの床やSA内のベンチで眠った方もいたようです。

八方台登山口で朝食、開会式の後6時30分から歩き始めました。山行幹事の田中さんが予め大所帯を3つに隊分けしてくださっていました。行動しやすさや他の登山者への配慮もさることながら、それぞれ隊のカラーがあって楽しめました。中の湯跡では硫黄の香りにつつまれ、弘法清水では豊富でおいしい水を飲みました。晴れ間を期待しましたが、次第に霧がたちこめ辺りは一面真っ白に。幻想的に美しい白さの中、ゆっくりと頂を目指しました。何故磐梯山は宝の山なんだろう・・・考えながら歩いていたら木の枝に頭をぶつけて笑われました。頂上でも景色は望めず、有名な大パノラマを胸に描きながら隊ごとに記念撮影。寒さのため早々に引き上げましたが、下っていく間に少しずつ暖かくなり青空が見えてきました。10時40分沼の平で昼食休憩。談笑していると雲が流れていきアザミの咲く湿原と磐梯山頂の勇姿が見えてきました。100余年前の噴火を想像させる様相で、さすが百名山の貫禄。完全に姿を出すまで、もう少しもう少しと長居をしてしまう美しさでした。後ろ髪をひかれながら下山地へ。眼下には大きな猪苗代湖と会津の町が望め、振り返ると先ほどの厳しい姿とはうって変わってこんもりと穏やかな磐梯山頂が見られました。最後のゲレンデ道は40数人が一列に見えるほどゆるやかに長く続き、その後の筋肉痛を予感させました。じんわり汗をかきながら下りていきましたが、パラグライダーが浮かぶ空は高く、ススキ野原を渡る風はもう秋のものでした。1時15分に下山地猪苗代登山口に到着。温泉にゆっくりつかった後、再びバスに乗り込み帰路につきました。帰りも順調で予定通り午後7時半には東京駅に着き、解散となりました。

貸切バスの旅は賑やかで楽しいものでしたし、なんといっても7000円ポッキリ(!)で磐梯山まで往復できて温泉までついてくるのですから、たいへんお得な山行でした。夜行だと時間に余裕があるのも良い点でした。早朝に山歩きができるのは幸せですし、ピークに朝9時に立てるとはワンデーハイクでは考えられないことです。幹事の方は下見やお手配が大変だったと思います。ありがとうございました。皆さまお疲れ様でした。





下山後の集合写真

■ 第12回OB山行のご案内(越前岳)

OB山行委員長 小野 恵美子(34期)

12回目のOB山行は下記のとおり越前岳を予定しています。日本200名山の一つ愛鷹山の最高峰です。裾を広げる雄大な富士を拝むことができます。

初参加の方が徐々に増え、じわじわと盛り上がっているOB山行です。皆さまお誘いあわせの上、是非ご参加ください。一緒にのんびりと冬の山歩きを楽しみましょう。

〔日程〕2004年12月4日(土)

〔行先〕越前岳(標高1504m)

〔地図〕昭文社山と高原地図「31 富士 御坂・愛鷹」

〔集合〕JR 御殿場駅 9:00

(※マイカーでお越しいただける方はお申込みの際その旨ご連絡ください。)

〔交通〕新宿駅 6:40～(小田急線急行)～新松田駅 7:57

東京駅 6:32～横浜駅 6:59～(東海道本線)～7:48 国府津駅 7:58～松田駅 8:13～(JR 御殿場線)～御殿場駅 8:49

または 新宿駅 7:20～(特急あさぎり1号)～御殿場駅 8:59

〔行程〕御殿場駅=(マイカー分乗・1台は山神社に置き、他は十里木高原へ)=十里木高原(10時頃)

— 越前岳 — 富士見台 — 愛鷹山荘 — 山神社 (16時頃) [歩程約4時間]

※下山後 1台のマイカーに運転手を乗せて十里木高原に他の車を取りに行く。本隊は山神社で休憩、車待ち。その後マイカー分乗で御殿場駅へ。

〔参加費〕500円(写真代等)

〔持ち物〕昼食、水、おやつ、雨具、防寒具、その他登山に必要な物

〔温泉〕ヘルシーパーク裾野(500円)、富士遊湯の郷大野路(800円)等あり。下山後ご希望の方はご用意を。

[申込み] 参加ご希望の方は11月25日頃までに下記のいずれかにご連絡ください。

吉野大次郎(2期) 電話 045-981-0921 又は 090-6485-9268

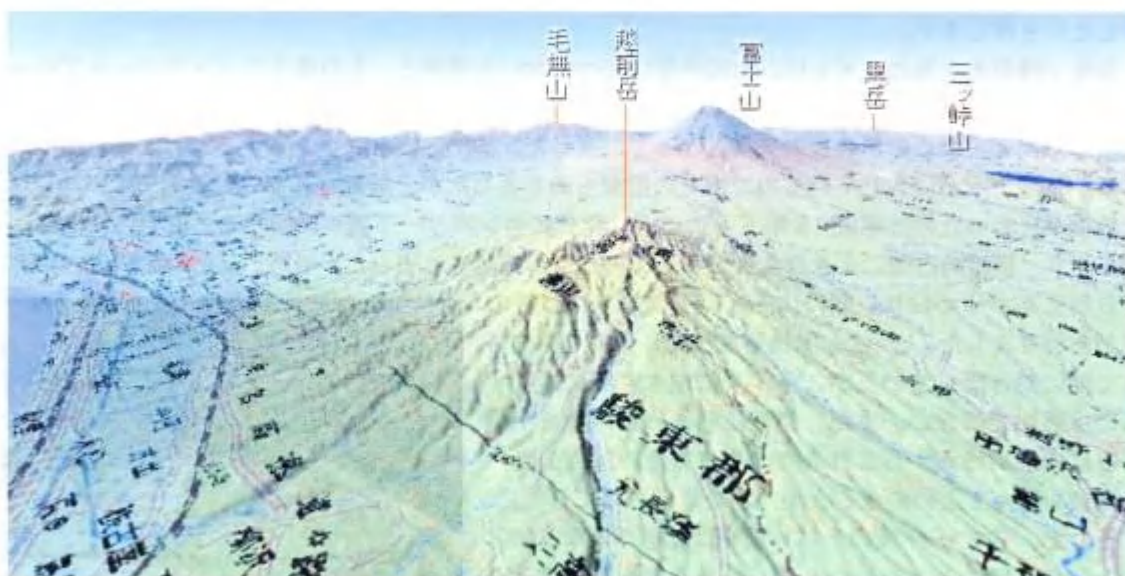
メール yoshino@r07.itscom.net

小野恵美子(34期) 電話 042-335-7251 又は 080-5517-7320

メール emiko150@s9.dion.ne.jp



コース概念図



越前岳鳥瞰図(カシ米尔3D使用)

■ 2005 年度OB総会の開催について

OB 会会長 嘉納 秀明 (1 期)

文責：副幹事長 田村 顕洋(34 期)

〔日 程〕 10 月 24 日(日)14:00~16:30 (13:30 受付開始)

〔場 所〕 横浜市西公会堂(2002 年度総会と同会場) 第一会議室

〔参加費用〕 6,000 円(懇親会費含む)

〔議題(予定)〕 2004 年度決算、2005 年度予算、新 OB の承認ほか

〔その他〕 議事終了後、米屋前部長を囲み懇親会を開く予定としています。

〔お問い合わせ〕 田村(a-tamura@mbg.ocn.ne.jp) 又は いずれかの役員まで



■ 苗名小屋トイレの改修について

報告：親跡 冬樹(34 期)

本年秋、苗名小屋トイレは一新される運びとなりました。ここでは、これまでの経緯について概括したいと存じます。

現況では苗名小屋のトイレは、和式便器ひとつをおいた便所と、その直下のコンクリートブロック便槽からなる構成となっております。ここ数年来、便器から真下を覗き込むと、便槽が水をなみなみとたたえているのが普通の光景となっていました。季節毎に水位が上下することから、便槽の隙間から地下水が流入しているのではとの推測もありましたが、放置されていた次第です。

状況が変わったのは平成 15 年 5 月のこと。屋外のコンクリート蓋が破断するとともに、内部は水が引き、便槽の内壁に大きな亀裂が入っているのが確認されました。当時、苗名小屋屋根の修理が日程にあがっており、同時にトイレも修理してはとの声があがりました。しかし、屋根修理は OB 会より認知されて既に動き出しているが、トイレ修理を唐突に提案するのは適切ではない。また、便槽に溜まった汚物を小屋周辺に穴埋め処理するこれまでのやり方を、国立公園内で将来も行ってよいのだろうか、との意見も出ました。

そこで、平成 15 年度のトイレ補修は見送りとなりました。苗名小屋にふさわしいトイレのあり方を調査することが、平成 15 年 6 月の役員会で決まり、調査を引き受けさせて頂きました。



小屋外部便槽ふたの破損状況

6月の役員会の後、私は調査の方針を定めなくてはなりません。この世の中に多種多様なトイレがある様だが、その全てを調査する訳にはいかない。苗名小屋の立地条件を考慮して、調査対象を絞るのが実用的ではないか。結論から申し上げますと「苗名小屋は山小屋」という前提条件をおくこととしました。

苗名小屋は標高約1,200mに位置し、公共下水道が整備されている地域から離れている。また至近に舗装された林道が通っているとは云え、しかし苗名小屋は林道から外れ、四輪駆動車でなければ行き来できない坂道の下にある。バキュームカーが汲み取りに来られるとは想像出来ず、よってトイレ問題に関しては山小屋と同等とみなしてよいだろう、としたのです。

ここで、山小屋には昨今、環境問題に配慮して様々なトイレが導入されているという予備知識がありました。山小屋のトイレについて調べるにせよ、全国の山域を調べるのは手を広げすぎて効率的でないと考え、メジャーかつ登山客の多い北ア・中ア・南アを抱える長野県の事例をサンプルとして取り上げるのが適当、と考えました。

幸いにして北アや南アで導入された、環境配慮型のトイレについては資料がまとめられ、インターネット上で公開されていました。事例として資料に掲載されている山小屋等に環境配慮型トイレのメーカーを尋ねると、いずれも快く教えて頂きました。そして各タイプのトイレのメーカーに問い合わせをしてパンフレットを取り寄せ、価格や諸元、トイレの原理で不明な点についてはメーカーの窓口に電話で問い合わせを行いました。

こうして平成15年7月には、調査結果をレポートのかたちでまとめることが出来ました。レポート中では明確に結論づけてはおりませんが、調査の範囲内では、環境配慮型トイレは電気や水を必要とすることや、またコストが高いことから、苗名小屋への導入は非現実的と考えられました。一方、妙高高原の複数の地元業者に面談したところ、「国立公園内であっても限られた利用者から生ずる比較的少量の汚物を私有地内に埋めることは、地元の通念として特に問題にはならないと考えます」との話を聞くことができました。

苗名小屋のトイレは在来の汲み取り式が適当という見方が強くなりましたが、その後平成15年11月に妙高高原にて開催されたOB総会では、トイレ補修のゴーサインが出るには至りませんでした。苗名小屋の屋根の補修でOB諸姉諸兄に募金を募ったので、これ以上負担を求めることは出来ない、という結論に達したのです。問題とされたのは財源というよりも、OB会活動の中で苗名小屋が突出・優先されることの是非であり、妥当な結論であろう、と個人的には得心するに至りました。

一方、次第に便槽の破壊が進み、小屋の柱の基礎を失う懸念が生じてきました。トイレ修理は翌平成16年より動き出すこととなります。これにはふたつの条件が必要でした。ひとつにはトイレ修理を実行する体制がととのうこと。この条件は14期鈴木氏という人材を得て満たされました。平成16年春より、地元業者への見積もり依頼、業者と打合せを重ねてトイレ仕様を決定、業者の選定、工事契約締結という一連の現地での業務を鈴木氏と共に進めることができました。

次に、OB諸姉諸兄に過度の負担をかけないトイレ補修資金捻出の方法。この文章を書いている時点で、65万円の工事費の内、現役が20万円、OB山小屋委員会が今年度予算から15万円を支出することが決まっています。残りについては、16年度総会で正式にその財源が決定されることとなるでしょう。

この7月には妙高高原にある「中電産業」との契約が結ばれ、8月中旬以降からトイレの修理が開始されます。新トイレは、旧来の和式便器に変わって、洋式の便器一台を合成樹脂シート床の上に配置することとなります。ちなみに水洗ではありません。

破損したコンクリートブロックの便槽は撤去され、新しく鉄筋コンクリートの便槽がおかれます。たまったし尿については「キジ汲み」を実施し、廁坑を小屋の近くの地面に掘って捨て、埋め戻すという従来通りの作業がこれからも必要となります。

9月には、新トイレの完成を御報告出来るものと存じます。

(本稿の作成に当たって、14期鈴木氏のご協力を頂きました)

■ 補足原稿

鈴木 道夫(14期)

この稿がOB各位に配られる頃には、苗名小屋のトイレはきれいになって修理が終わっていると思います。工事の経緯は親跡小屋委員の報告の通りです。

昨年は屋根の葺き替え工事に当たり、現地の実務担当者として参画させて頂きました。いろいろと楽しかったり、辛かったりの思い出ができました。ただ、この工事ではOB会として認知された事業を確実に進めることが私の役回りでした。

今年のトイレ修理は、「そもそも山小屋にトイレは必要か?」という疑問をお持ちの方々もいらっしゃる中で、予算確保から始めることになりました。幸い、現役と山小屋委員会の合意が出来て、シニア世代からもアドバイスが得られるようになり、ようやく修理にたどり着けました。組織をひとつの合意に導く難しさと、ひとたび合意されれば強い力が発揮されることを学び、個人的にも貴重な人生経験を得ることができました。学生時代にYWVから多くの事を頂きました。諸先輩、同期、後輩諸君へのいささかの恩返しが出来たようで嬉しく思います。多くの方々の暖かいご支援に感謝しております。

(2004.8.3)



据付前の新しい便槽(8/28 撮影)

■ R2004の開催について

報告：OB 小屋副委員長 石川 真(maco1023@hotmail.com)(41期)

今年もこの季節がやってまいりました。R2004 を下記の要領で開催したいと思います。皆様お誘い併せの上ご参加ください!! 作業は肉体力労働から家事程度のことまであります。皆様の体力次第で如何様にも手伝える集まりになると思います。また、夜にはBBQなども企画しておりますので、たまたま近くに居るからそれだけ参加する! というのもOKです。

〔日 時〕2004年10月9日(土)～11日(日)

〔作業内容〕小屋までの道路整備、新しい畳の運搬・設置、通常的小屋整備

〔お問い合わせ〕現地までの交通手段をはじめ、お問い合わせは石川まで



恒例 防腐剤塗りのひとコマ

■ 期別便り

■ 44 期便り

志賀 圭(kei_shiga@hotmail.com)(44 期)

～雨ばかりの寒くなったロンドンより～

3月に無事に国大を卒業し、4月からロンドンに住んでいます。私がここで何をしているのか?まずは、そのことから綴ることにしたいと思います。私が在籍している学校は SOAS (School of Oriental and African Studies, University of London) というところで、アジア、アフリカ地域に関してあらゆる研究が成されている所で、私にとっては、たまたま面白い場所です。この大学は留学生の存在をあまり快く思っていないどこかの Royal と名の付く大学とは違い、学生、教員も含めると世界中の国の大半を網羅しているのではないかとはいくらか留学生の数が多すぎます。まさに人種の坩堝と言えます。留学生の年齢も非常に幅が広く、BA の若い人もいれば、MA、PhD に来る人は一度社会に出てからの人が多く 30 代、40 代も珍しくありません。これを読んでいる読者の皆さんも、これからもう一度、学問の世界へ戻っても遅くはないと言うことです。私はこの大学にて現在はアジア、アフリカについて経済学的な観点からではなく、もう少し広い視野で見ながら学んでいます。非常に充実したときを過ごしていると思います。



SOAS にて筆者

ロンドンというところを思い浮かべるのでしょうか?River Thames, Big Ben, Westminster Abbey, Buckingham Palace, Hyde Park などなど数え切れないほどの観光地が一般的には知られていると思います。もちろん、それらも見所ではあります。しかし、それらの場所に行くと、いつも観光客でごった返しており疲れてしまいます。また、こちらにずっと住んでいる者にとっては、一回行ってしまえば、もうそんなに価値のあるものでもなくなってしまいます。ロンドンの公園は、とても広く、夏の暖かいときには寝ころがる気持ちのいいものですが、もう肌寒くなり、雨ばかり降っているロンドンにおいては、もう行く気もしないというのが現状です。

ロンドンには国際都市と言う性格を持っています。想像とは違うと感じる方も多いと思いますが、実際のところロンドンの街中を歩いていてイギリス紳士とか生粋の English に会うことはなかなかありません。目に付くのはトルコ人やインド系の人、多種多様なアフリカ人、そして中東を中心とするムスリムの人々です。また、この国ではイスラエル人を見ることも多いです。ロンドンの大きな街に彼らの住むコミュニティがあります。それらの人々の居住区に行ってみると、服装、臭いなどまさに現地にいるかのような感覚に陥ります。私の今の楽しみは、そういった国ごと、民族のコミュニティを訪れ、そして料理を味わうことです。そこで食べる料理は、まあ当たり外れはありますが、私が旅をした国々の懐かしい味が楽しめます。そして、それらは、本当に馬鹿みたいに金を払わなければならない一般的なロンドンのレストランより格別に安く、美味しいのです。最近では Old Street から少し歩いたところにあるベトナム人街、そして Brick Lane というところにあるバングラデシュ人街がお気に入りです。その他にもタイ人がやっている美味しいタイ料理の店、インドのケララのカレーを出す店、トルコ人街のケバブ屋などによく足を運びます。しかし、ロンドンにおいて行ってはならない場所が一つあります。それは China Town です。ここは歴史が古いこともあるのでしょうが味が土着化してしまっています。値段は高いのに味はひどい物です。しかもイギリス人はこれを旨そうに食っているのですから・・・、一般的にイギリス料理は日本人の舌には合わないことは想像に難くないと思います。私の友人のイングランド人も、あんまり美味しいものじゃないよと言っていました。美味しい中華料理屋は、別のところにちゃんとあります。

1 ポンド=200 円を超えるポンド高、円安の為、ここでの生活コストは非常に高いです。日本との大きな違いは公共交通機関の料金が安いこと、そしてスーパーマーケットなどで買う生鮮食料品などの生活必需品、日用品が日本よりも高いことが生活を苦しめます。当初の予定の2倍近くの生活コストがかかっていると言うのが現状です。私は、そういった金銭的な問題とプライベートの事情により12月か来年の1月には帰国する予定にしています。それまでは、ロンドンでのイギリスらしくない学生生活をSOASにて満喫したいと思います。

トルコ人街のとあるトルコ人家庭ホームステイ先より

■ 期別便り 募集!

編集委員長 田村 顕洋(a-tamura@mbg.ocn.ne.jp)(34期)

現在、期別便りは下一ケタが、0~4 及び 9 の期について掲載をしてきましたが、以下の期については、まだ掲載出来ておりません。該当期のどなたでも結構ですので、投稿をお待ちしています。(ご本人のみの近況でも結構です。)

11期,12期,19期,20期,21期,24期,31期,41期

■ 自由投稿

■ 四国八十八ヶ所礼所自転車遍路

郡司 直樹 (4期)

今年3月に18日間かけて自転車で四国八十八ヶ所礼所巡りをしましたので、ここに概要を報告します。

1. 事前準備

そもそも四国八十八ヶ所巡りを思い立ったきっかけは、「横浜電化材化会会報」(18号、S63.12)に掲載された、大先輩の飯島英雄氏(S17.9卒)が定年5年目にミニバイクで四国八十八ヶ所を巡り、1988年8月8日8時8分に88番結願の大窪寺を参拝したという記事でした。私も会社をリタイアして4年目になりましたので、そろそろ実施の潮時と考えて調査をしてみると、四国八十八ヶ所の道のりは図に示す通り総延長約1,400Km、歩きで40~50日、自転車で2~3週間、自動車でも7~9日要します。

本当は全長を歩き遍路したいところですが、日数が掛かりすぎて数回に分けて歩かなければならないので、自転車で一気に巡ることにしました。

そこでツーリング用の自転車クロスバイクを今年2月に購入し、足慣らしのため近所を乗り回してアップダウンでの24段ギアシフトチェンジを習得すると同時に、各種装備、ウェアなどを買いました。

2. 阿波23寺(発心の道場)

3月17日夜品川バスターミナルから徳島行き高速長距離夜行バスで出発して、18日夜明けと共に大鳴門橋を渡る頃に目覚めて外を眺めると雨です。早朝に松茂とくたくターミナルでバスを下りて、タクシーで徳島空港近くの佐川急便徳島店へ行き、事前に宅配便で送っておいいた自転車と荷物を引き取り、店頭で自転車を組立て荷台の荷物にレインカバーを装着し、雨具を着けて8時15分に自転車遍路をスタートしました。

初日は予定通り1番霊山寺で納経帳、納札などを購入してから10番切幡寺まで打って宿に到着しましたが、2日目は12番焼山寺が標高800mの山中にあり自転車を麓に置いて往復2時間半歩いたので、計画していた16番観音寺と17番井戸寺は納経所の受付時刻午後5時までに間に合わずスキップして、予約した徳島市の宿へ向かいました。この2寺は最後の日に88番大窪寺の後で廻ることにしました。

コースの状況、天候、体調などから机上の計画通りには運ばないと考えて、泊まる宿を2日目までは事前に予約しましたが、以降は前日夜に電話で毎日予約することにしました。札所では本堂と大師堂にお参りして納札を納め、納経所で「お印」の納経を受け、山門、本堂、大師堂の写真を撮ってきました。

21日の23番薬王寺の後は、高さ200mの千羽海崖を眺めて快適な18kmのドライブウエー南阿波サンラインを走り、室戸岬先端にある24番最御崎寺へ向かいました。

3. 土佐 16 寺(修行の道場)

23日は高知市周辺の28番土佐大日寺から、途中で無料の浦戸の渡し船を経由し、34番種間寺まで打った後、桂浜水族館の2階に泊めてもらいました。館長の永国雅彦氏(電化、S36卒)とはNKK時代に同じ職場で働いた仲間で、高知城の夜桜を見物の後、酔鯨亭で名物皿鉢料理をご馳走になりました。

25日は37番岩本寺を打った後、中村市で四万十川を渡り87km走って足摺岬先端の38番金剛福寺へ到着したら激しい夕立になりましたが、宿が門前の旅館で助かりました。翌日の39番延光寺へは宿の助言に従い、予定の足摺サニーロード竜串経由を変更し、山越えで三原村を経由して国道56号線に出ました。



桂浜水族館にて

4. 伊予 26 寺(菩提の道場)

自動車の交通量が多い国道のトンネルを自転車で走り抜けるのは恐ろしいものですが、27日の40番観自在寺と41番龍光寺の間で自動車専用のトンネルとは別に歩行者・自転車専用のトンネルが2ヶ所設けられていて、安心して感謝しながら走行しました。この日は鳥越トンネル入口で休憩した後、1時間程走って背中ザックがないのに気づき、あわててタクシーで休憩所まで戻りザックを回収した失態もありました。

今治では58番仙遊寺から宿に向かう途中で自転車がパンクして近くの自転車店で修理してもらいましたが、翌日湯ノ浦ハイツをスタートして直ぐにパンクしたので車で自転車店に送って貰い修理し、59番国分寺を打って出発したら3度目のパンクです。今回の遍路中パンク発生はこの時だけで、何故か原因不明です。

5. 讃岐 33 寺(涅槃の道場)

66番雲辺寺は全コース中最高の標高924mにあり、ロープウェイを利用して標高差657mを克服しました。他に山中の寺で他力に頼ったのは、ロープウェイ利用21番太龍寺、参拝バス利用60番横峰寺、ケーブルカー利用85番八栗寺などです。

4月4日昼にミズレが降る中で結願の88番大窪寺に到着し、門前でYTCの壮行会に貰った旗を広げました。冷え切った体を茶店のたらいうどんと甘酒で温めてから、改めて後回しにした阿波の2寺に向かいました。

6. 結び

18日間で四国八十八ヶ所を走り終えて、翌日徳島港からフェリーで船中1泊して東京港に戻り、自転車で横浜の自宅まで無事走って帰りました。四国遍路を巡る人は煩惱を抱えて問題解決のために歩くと云われていますが、私は特段の悩みもなく自転車で廻ってしまい、結果として体重が3kg減量しました。シニアOBの仲間でも(2期)北見さんがご夫婦で、(7期)松本氏は独りで歩き遍路を続けていますので、結願したらOB会報に執筆されることを期待しています。

私の四国八十八ヶ所札所自転車遍路の総括記録を下記に示します。

四国遍路期間	走行距離総計	走行時間総計	平均速度	最高速度	平均走行距離
3.18~4.4 (18日間)	1,303.4km	100時間25分	13.0km/H	50.9km/H	72.4km/日



結願！



四国霊場全88箇所

■ ワンゲル初代部長 柴田晴彦先生の思い出

嘉納 秀明 (1期)

柴田先生は機械工学科の教授で私の恩師である。

先生の講義は「溶接工学」というもので勿論前の方の席で拝聴していたが、いまとなるとさっぱり教えられたことが出てこない。ところが、先生がよくされる脱線の余談の方は今もことごとく思い出せるから不思議である。まず先生の十八番は2つ、一つは「自分は19世紀人である」、1899年のお生まれとかで自己紹介のはじめには必ず言われるので何度か聞いている。もう一つは「卒業したとき職業は決まっていなかったが、嫁さんは決まっていた」、これも一再ならず伺った。「いいなづけ」と言う言葉が生きていた時代のことである。大学生のうちに婚約されていたのだろう。実際大変な愛妻家でいらしてお話を伺っているとすぐ奥様の話が出てくる。その他には、日露戦争の日本海海戦の解析である。世界初の軍用無線通信のことやロシアより遙かに優秀であった下瀬火薬、伊集院信管のこと、さらに「火力が1割まさりたる艦隊は敵艦隊を最終的に全滅せしむ」というような(正確には覚えていない)命題を微分方程式を用いて数学的に証明するもので、感心して聞いていた。



柴田先生

ちなみに、来年は日本海海戦100周年に当たる。当時の大学生と日露戦争との時間距離は、今の大学生と第二次世界大戦との時間距離と同じになっている。柴田先生にとっては日露戦争は幼児体験になろうが、私にとっては第二次世界大戦が幼児体験に属する。そのときは溶接工学の講義に艦隊戦の解析が出てくるとは思ったが、今の私が学生達に東京上空の空中戦や空襲体験を語っているのと同じなのだと思う。

さて就職のほうは国鉄技研に決められだが、その理由は全国どこへでも列車無料乗り放題の当時の国鉄の制度にあるという。技研でどんなことをされていたのか? その一つに「柴田の球転がし」と言われる研究がある。これは列車が鉄橋を通過するとき、橋にどのような力が掛かるか、その時間的变化を調べようというもので、私が戦前の機械学会誌から探し出してきたその論文によると「ソノ微分方程式ヲ解キユカバ・・・」と微分方程式を立てて理論解を出し、その実証として実験を行っている。実験と言っても実物の列車を実物の橋に走らせるのではなく、模型実験を行った。それはレールに見立てた2本の鉄の丸棒の上をボーリングをするように鉄の球を転がすのである。そのとき、鉄の棒がどのように撓んでゆくかを計測すると言うものである。これを何度も繰り返したので、ついにこのようなあだ名が付いたと言う次第らしい。

乗り放題の特権を利用していろいろ山旅をされた。国大に來られてからも同僚教官と山に出かけられた。そのおり、吾妻の一切経山のあたりで霧にまかれて道を失い遭難しかけた時、一瞬霧の合間から五色沼が見えことなきを得たというお話もうかがった。

1959年6月の尾瀬アヤマ平でワングルの部隊が偶然に先生と出会うご縁ができ、その夏のワングル主催一般募集の上高地サマーキャンプに顧問として来て頂いた。合宿が終わって、常念越えで徳高町の方に帰られるという先生を送って、私は先生と二人だけの山行をした。当時の記事に「親子ほど歳違う私たちであった。先生は歩きながら「僕くらいの歳になるとね、どの山もこれが見納めだと思ふよ」と言われた。」と書いているが、先生還暦の頃である。その歳に近い今のシニアOBが現役の学生さんと山を歩くことになったら、はたしてどんな感慨を漏らすことになるのか。道は一の俣谷を溯行するコースで、谷川に突き出た球状の5メートルくらいの岩の腹をロープにつかまり、体を水平にして歩いて通過するところや、はしごの多い七段の滝など難所もあったが、無事常念乗越の常念小屋までご案内できた。私は再び一の俣谷を下り、丁度難所のところで豪雨に遭わずぶぬれになりながら上高地に戻った。後日先生からお便りを頂き、あの豪雨の後の日差しで見事なブロッケン現象をご覧になったとあった。「君が居なかったらあの一の俣谷は登れなかったでしょう」と言われて感激したものであった。後年、先生と山行を共にしたときも、年賀状の返事にもこの一の俣谷のことを言われていた。私にとっても思い出多い先生との山行である。

こんなご縁で1960年7月から正式にワングル部の部長になって頂いた。先生は新人歓迎コンパ、追い出しコンパや夏合宿の壮行会に出席され、励ましの言葉を頂いていたが、1962年4期が行った東北合宿「祖国を知ろう」では、「若い人たちが祖国を知ろうと言ってくれるのは非常に嬉しい」と言われていたのを思い出す。当時は毎年発行されていたスカイラインにも「世の中に山ほど良いものはない」と言う記事を書かれ、山への思いをつづられている。1966年に66歳になられる先生は定年で武蔵工業大学に移られた。私は機械工学科の助手になっていたので、学科での送別会に出席している。ワングルとして柴田先生に感謝する会が現役、OB合同で盛大に開かれた。写真は当日挨拶される柴田先生と会の様子である。

開会の辞、送辞(松本OB会会長、現役代表白神氏)、柴田先生挨拶、記念品贈呈、乾杯、会食歓談、余興、閉会の辞 というプログラムであった。

私たちはOB会でOB山行を始めていた。OBとも懇親を深めようと「柴田先生と歩こう」というOB山行を企画して、1965年7月栗駒山、1966年7月は暮坂峠に泊まりがけの山行を行っている。栗駒山は須川温泉で泊まり、栗駒山にゆっくり登って一関に下った。そして、平泉に行き中尊寺に参ってきた。上州の暮坂峠は牧水の碑が立っていて先生が是非行ってみたいと言われていた峠道である。

「乾きたる落葉のなかに 栗の實を濕りたる朽葉(くちば)がしたに 橡(とち)の實をとりどりに拾ふともなく拾ひもちて 今日山路を越えて來ぬ 長かりしけふの山路 楽しかりしけふの山路 残りたる紅葉は照りて 餌に餓うる鷹もぞ啼きし 上野(かみつけ)の草津の湯より 澤渡(さわたり)の湯に越ゆる路 名も寂し暮坂峠」という詩が彫られていた。

野反湖や尻焼温泉にも行って来たが、先生が「楽しかり今日の山路」と繰り返されてほほえまれているのを印象深く覚えている。このときの写真はスカイライン40号周年記念号16ページに載っている。そのとき、先生の思い出の文章も送ったのであったが、どうしたわけか写真だけが載り、文章は載せられなかった。それでいま再び書いているのである。

その後、武蔵工大の研究室にお邪魔しお話を伺ったこともあったが、私が阪大に移ったので年賀状だけの連絡になってしまった。それも15年位たった年、ご家族からの連絡が高齢になったので賀状は遠慮しますとのことで、便りも途絶えた。私が明治大学に移った1986年、新聞で先生のご逝去を知った。告別式に柿の木坂のご自宅に赴



感謝会の風景

くと、神道によるお葬式であった。その日ワングルからの出席者は私だけであった。私は石垣の下にたたずんで先生の業績を讃える祝詞を聞いていた。

■ 「飯村治雄君」を送る言葉

早坂 宗 (8期)

飯村君とは、昭和 39 年に横浜国立大学経済学部に入學し、ワングーフォーゲル部に入部して以来だから、かれこれ 40 年以上の長いお付き合いになる。入部当初から、若干の老け顔で、話す中味も難しく、同期の皆から一目も二目も置かれていた。1 年の夏合宿が山陰地方の集中豪雨で延期になった時、あなたの実家が府中にあったため、横浜の私の下宿に泊り込んだのが親しい付き合いの始まりだったと思う。以来あなたは在学中、広くもない私の部屋をホテル代わりに使った。200 泊は優に超えていると思う。洗足池から通う小出君や浅草から通う畑中君も時々彼に倣った。深夜に襲われる私は寝不足になった。勿論、わたしも新宿発の夜行で山に出発する仲間を見送ったり帰りなどに府中のあなたの家に泊めてもらい、自分の家のように面倒を見てもらった。私の部屋に彼らが来ると、安い酒を飲みながら夜明けまで話し込み、昼まで寝て、午後トレーニングのために大学に向かう生活となった。残念ながらあまり勉強した記憶がない。その頃あなたはユダヤ人思想家やマルティン・ブーバーに惚れ込んでおり、「我と汝」の関係や、「人間とは何か」について、その情熱的な話しぶりは、とどまるところを知らなかった。そんなあなただから、私は「読書」と「思索すること」と、ついでに「麻雀」を学んだ。2 年生になり、ゼミナール活動が始まったとき、私は小出君・畑中君と共に近代経済学の「宇田川ゼミ」に入ったが、あなたはやはり関心の強い社会思想史の「縫田ゼミ」に入った。ワングルの「山行」では、一緒の機会が少なかったが、「飯盒一本の飯を平らげた」とか、「フラフラになっても歩き続けた」とか、あなたの猛者ぶりはつとに名高かった。3 年生になり、皆の信頼が厚く包容力のあるあなたは、選ばれてワングルの主将になった。中部・北陸の夏合宿では、本当に山に登りたかったろうに、ヤセ我慢して、現地本部隊の指揮をとった。学生時代のあなたとの思い出を語れば走馬灯のようで、限りがない。

卒業してからは、勤務地も違い、社会人の駆け出しとして、皆があくせくしていた頃で、お互いの結婚式で顔を合わせては飲むぐらいのものだった。4 人の中で一番あとに結婚したあなたが、一番若い美人の嫁さんをもたらすと、皆で羨ましがったことを、飯村君！あなたは覚えているかい。子供が生まれてからは、家族ぐるみの付き合いになった。長女「弥穂」さん、長男「文太郎」君、山好きのあなたらしい名付けだ。掛川にある「つま恋」には皆で何度となく行って、子供たちと一緒に遊んだ。あなたの関西在勤時代には、まだ小さかった子供をつれて、神戸の六甲山や比良の山々に、よくハイキングに行ったようだね。「文太郎」君がリトル・リーグに入ったら、今度は野球に夢中になった。聞けばコーチも務めていたという。どこにそんな才能を隠していたんだろう。おまけに、高校野球では、まるであなた本人が甲子園出場を目指しているかのような盛り上がりぶりで、手をつけられなかった。一方、「弥穂さん」のパレーに触発された奥さんの「るい子さん」も、負けじとママさんパレーに汗を流す。スポーツに明け暮れた充実した日々だった。そんな合間を縫って、北海道の大雪山サン北アルプスの白馬岳、南アルプスの北岳など「いい山」にしっかり家族を連れて登っている。ブロッケンにも出会ったそうだね。本当によく気の付く家族思いのやさしい男だ、あなたは。

大腸癌の手術をしたと聞いたのは、もう 3 年前になるか。完治したので温泉のある楽な山に、4 夫婦揃って行こうと、福島「二岐山」を目指したのがちょうど 2 年前の 12 月。あの時は、雪に見舞われたせいもあるが、本調子ではなかったね。去年は 10 月に紅葉の「荒船山」と「草津白根山」、今年の 5 月は残雪の「北・横岳」を登ったよね。杖を使わず頑張るあなたに、「もう無理はするな」と還暦祝いに 3 人で登山用の杖をプレゼントした。使ってくれたみたいだね。また癌に罹ったと聞いたのは、8 月。9 月に手術の予定ということで、あなたは気を使ったのか、入院前に 3 夫婦を自宅に招いて歓待してくれた。実際には 10 月に手術入院、見舞いの度に山の話などをして元気そうだった。長女の結婚式を楽しみに、あなたは一生懸命頑張っていた。11 月 15 日、待望の娘

の結婚式に出席し、娘と手を携えてバージンロードを歩き、父親として「慈愛溢れる挨拶」を立派にしたと聞いて涙が出た。

12月1日、午後10時2分、あなたは遂に帰らぬ人となってしまった。この大きな悲しみとむなしさの持って行き場はないが、繰り言は言わない。あなたは実に良く頑張った、そしてあなたは全力で立派に生きた。あなたの今日までの生きざまが、あなたの愛した素晴らしい家族の胸の中に永久に生き続ける。残された家族のことは心配するな。今後も私たちがついている。

飯村君、これでおわかれです。どうぞ、心安らかに眠りください。

平成15年12月6日 多くの友人を代表して 早坂 宗
(本稿は、シニアOB山行8期幹事 田中 稔さんから、5月に投稿があったものです。)

■山小屋日誌より

父の思い出をたどって、やってきました。

5年前、父が亡くなった後、母が若いころの話をよくするようになり、たびたび話に出て来たのが、この妙高と苗名の小屋でした。縁あって上越の女性と一緒に、この辺りまで来ることもしばしばでしたが、苗名小屋まで来ようとは思っていませんでした。このたび、ふとしたことから、また、父の60才になったであろう誕生日を迎え、訪ねてみることを思い立ちました。

母のとぼしい記憶だけでなく、8期池原様のアドバイスを頂き、また、五八木荘の岡田様の協力を頂き、やっとの思いだどり着きました。ありがとうございました。

小屋創立当時父が、資金集めにアルバイトをしていたこと、建設時に柱材の材木運びをしたことを聞き、この小屋に父の汗がしみているのかと思うと、万感胸にせまる想いです。

国大WV部の大切な小屋に立ち入らせて頂きましたこと、お許し下さい。大変貴重な体験をさせて頂きました。

この小屋が、何年も続きますよう、いのっております。

2004.8.15 森 良太 (父 森 正之(8期))

(本稿は、小口 雄平さん(14期)より投稿があったものです。)

■ 会費納入のお願い

会計幹事 吉野 大次郎(2期)

会報27号に同封いたしました払込取扱票は2005年度年会費、前納会費、総会参加費、寄付等をお振込みいただく用紙です。取扱いは郵便局です。大きい局のATMは夜間、土日も取り扱っております。お早目にお振込み下さい。

- ・年会費：2,000円(2004年10月から2005年9月までの2005年度の会費)
[宛名ラベルに「今年度会費は納入済」という表示がある人は今年度(2005年度)の会費は納入不要です]
- ・前納会費：10,000円(2005年度～2010年度の6年間の年会費前納分)
- ・総会参加費：6,000円(懇親会費含む、総会のみ参加者は500円)
- ・寄付金：(小屋、一般)どちらかに○をつけて
- ・最新名簿代金：500円(郵送希望者のみ)

払込取扱票を紛失した場合は、郵便局で用紙を貰い、下記口座番号と加入者名を記入してお振込みください。

口座番号：00290-3-2419

加入者名：横浜国立大学ワンダーフォーゲルOB会

注：なお、年会費(前納会費)を納入されない方には、やむを得ず、今後会報のご送付を止めさせていただきますことでもありますので、予めご了承ください。



夏・剣岳

YWVOB 会会報第 27 号

発 行:横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

発 行 日:2004 年 9 月 12 日

発行責任者:嘉納 秀明(1)

編集責任者:編集委員長 田村 顕洋(34)

編 集 担 当:編集副委員長 松本 弘道(7)、同 山崎 美穂(39)

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。